



ワールドメイト東北救援隊、 ゴジラ救援隊の活動報告です。

東日本大震災の3日後（2011年3月14日）から、ワールドメイトでは、被災地への救援活動を開始しました。深見先生の指示のもと、スタッフが毎日、被災地へ食糧や物資を運び続けています。震災から2ヶ月近く経った5月現在も、トラック5台による救援活動は続けられています。

阪神大震災があった時も、同様の活動を行ったのです。

ワールドメイト救援隊は、2つのグループに分かれて活動しています。

1つは、東北エリア本部（仙台市）を拠点にしながら、東北各地の救援活動をしている「東北救援隊」。

そして、もう1つのグループは、「放射能の風評に負けない、ゴジラ救援隊」です。こちらは、いわき市や茨城県北部に住む会員と、困窮してる市民のために、日夜救援活動を続けています。ゴジラとは、放射能で巨大化し、放射能や電気を食べ、パワーに変える怪獣です。それぐらいの気概をもって、被災者を救えという、深見先生の喝で命名されたのです。

以下、救援活動の一部をご報告いたします。

（救援隊スタッフによるレポートです）



救援隊第1陣は、トラックとワゴン車で、2011年3月14日、東京を出発しました。さらに3月16日早朝、第2陣のトラックも出発しました。

食料や水だけでなく、ガソリン、乾電池、鍋、やかん、下着、おむつ、生理用品、ティッシュ、タオル、マスクなど、必要とされる日用品を沢山積んで、救援隊が出発しました。

放射能の風評に負けない、 ワールドメイトゴジラ救援隊

福島県いわき市や茨城県北部は、風評により、政府や自治体、民間の救援隊も恐れて近づかない所です。だから、会員の数家族が、現地から離れることを望んでいます。しかし、ガソリンや食料がなく、それもできないのが現状です。

また、福島県の牛乳や茨城県のハウレンソウが、それぞれ基準値の3倍や7・5倍の、放射能や放射性ヨウ素が検出されました。それで、出荷が自粛されたのです。しかし、同じ新聞には、「健康には影響ない。その牛乳を1年間飲んでも、胸部CTスキャン1回分、ハウレンソウはCTスキャンの5分の1」などと、科学的分析がされています。しかし、人々のイメージは、福島県や茨城県は、野菜も牛乳も全て放射能に汚染されており、近づくのは危険だというものです。これが、風評の恐ろしさです。さらに、政府や新聞の発表は、大きな危険を隠していると、ツイッターやブログ、インターネットで騒がれ、風評に拍車をかけているのです。

そこで、いわき市や茨城県北部に住む会員と、困窮してる市民のために結成されたのが、「放射能の風評に負けない、ワールドメイトゴジラ救援隊」です。

このゴジラ隊は、マイクロバス1号、2号、「コントラバス号」、4トントラックの4隊です。

いわき市にコントラバス号が到着！ ～コントラバス号レポート

3月19日、「コントラバス号」がいわき市に到着しました。皆様、深見先生から救援物資が届いたということで、感激し、涙ぐむ方もありました。

いろいろお聞きしてわかったのは、いわき市内でも、場所により、被害の差があるということです。ガス、水道、電気がきちんと使える場所もあれば、水が出ない地域もあります。実際に必要なものは何かをお聞きし、可能な限り、意向に添うよう物資を提供させて頂きました。

町の様子は、特に、家が倒壊しているわけではなく、



コントラバス号



いわき市平体育館（避難所）にて。
ガソリンたっぷりと、ハローキティうどん
2400食をお渡ししました。



外見的には問題ないように見えます。しかし、ガソリンスタンドが、いつオープンするかわからない状態にもかかわらず、車は1キロメートルの長蛇の列を作っています。コンビニは、完全閉店です。わずかにオープンしているスーパーは、人が殺到して品薄状態です。

「行政の救済策がなにもなされていない」と、地元の方も嘆いておられたのです。

今回の救援物資は、本当に命をつなぐ、大切な物資となっているのは、間違いないと実感しました。

ゴジラ隊4トントラック隊のレポート ～いわき市の市長も感動！

3月19日、ゴジラ隊の4トントラック隊が、いわき市に向けて出発しました。

いわき市の平総合公園で、困窮している一般被災者が300人いると聞いたので、そこに物資を届けに行ったのです。

しかし、実際現地に到着してみると、ここには、自衛隊の支援基地もありました。そこで、いわき市から依頼された、カップ麺300食のみを手渡しました。

そして、「この辺りに300人程度の被災者がいて、困っているという情報を聞きました。それはどのあたりですか？」と聞いてみました。すると、それは、平体育館であることが分かったのです。

それで、平体育館に向かいました。ここでは、町の公用車のガソリンが、全く底をついてたそうです。だから、非常に切迫した状況だったのです。まさに、その絶妙な

タイミングで、私たちのトラックが現れ、ガソリンを補給できたのです。このタイミングの良さに、ここの運営責任者の体育館館長は、「本当に助かった」と、涙を流して喜んでおられました。ここでは、当面必要な分のガソリンと、「ハローキティうどん」2400食をお渡ししました。

後から聞いた話ですが、このゴジラ隊の救援が、平体育館の関係者はよほど嬉しかったようで、体育館の防災責任者が、直接いわき市長に報告したそうです。

それを聞いた、いわき市長も感動し、「それは、直接お礼を述べなければならないね」と、深い感銘を受けてたということです。

皆が喜んだ、ハローキティうどん！

さて、その後、平体育館の館長に「支援をお願いしたい」と懇願された、草野中学校に行きました。この草野中学校には、避難所に来れない人々から、次々と電話がかかってくるそうです。そのほとんどが、「食料がほしい」という内容で、とても対応しきれず、途方にくれていたのです。

そこで、トラックから「ハローキティうどん」1300食を降ろし、お渡ししました。ガソリンもお分けしました。草野中学校の皆さんは、たいへん喜んで下さったのです。

ここは、街中の正式な避難所です。だから、最低限必要な食料の供給があります。しかし、いつも味気ない同じ食べ物であり、避難者も辟易としていたそうです。そこに、ちょうど、キティうどんをお届けできました。だから、避難者のみんなが、大喜びだったのです。



いわき市草野中学校（避難所）にて。
ここでは、ガソリン、ハローキティうどん1300食をお渡ししました。

こういう現場を目の前で見ると、この地域の救済を指示された深見先生の判断は、本当に素晴らしいと、感動せずにはられません。

まずは、役所の拠点に物資をお届け

その後、さらに、今度はいわき市の「^{ひさの}久之浜」という地域に行きました。

ここは、大地震による大津波の被害をもろに受けた地域です。途中の海沿いは、完全に瓦解した住宅や折り重なった自動車、林の中で逆さになってる大きな漁船などが見え、その光景に震撼としました。

「久之浜」の役場機能は、「^{よつくら}四倉」という所に移っています。そこを救援拠点として、地域住民を支援する事になってるようです。しかし、実際には、久之浜へ輸送する物資は、全くないそうです。

まずは、その役場の拠点である「四倉」支所に、以下の物資をお届けしました。

- ・キティうどん 1200食
- ・スポーツドリンク(2L) 12本
- ・スポーツドリンク(500ミリL) 48本
- ・緑茶(500ミリL) 24本
- ・栄養ドリンク 20本
- ・フェイスタオル 38枚
- ・タオル 17枚
- ・男性用下着(上) 22枚
- ・男性用下着(下) 15枚
- ・くつした男性用 18枚
- ・女性用下着(上) 23枚
- ・女性用下着(下) 34枚
- ・くつした女性用 20枚
- ・ゴム手袋 200枚
- ・割り箸 1400膳
- ・カイロ 10個
- ・歯ブラシセット 14個
- ・マスク 1000枚
- ・手術用手袋 2000枚
- ・トイレットペーパー 30ロール
- ・ウェットティッシュ 23本
- ・ティッシュペーパー 30箱

行政の支援も、民間の援助もない、 取り残された集落

こうして向かった「久之浜」は、福島原発から、約32キロの集落です。避難地域ではないのですが、数日前に、自主避難勧告がありました。しかし、とても村人全員はフォロー出来ず、結局、多数の住民がとどまってるそうです。

さらに、役場機能が四倉に南下したため、この久之浜には、物資がまったく来ませ

ん。ガソリンのない住民は、車で取りに行くこともできず、大変困っていたのです。

私達が、最初に集落に入ったときは、道路に全く人影がありませんでした。偶然、1人の年配の方が、通りかかったのが見えました。そこで、その方に声をかけ、「ガソリンは足りてますか？」とお聞きしました。すると、その男性は、「え？ ガソリンを分けて下さるんですか？」と驚きます。私が、「もちろんですよ！」と答えると、その方は本当に喜んで下さったのです。

その後、周辺の民家から、2人、3人と、私達のトラックに集まってきました。あっと言う間に、30人以上の住民に取り囲まれました。皆さんが、「ありがとうございます。ありがとうございます！」と、何度も深々と頭を下げます。中には、「これで、ようやく避難できる」と、涙ながらにおっしゃるお年寄りもいました。

深見先生は、事前に「全く行政の支援がなく、民間の輸送援助もなく、困ってる場所があるはずだ」とおっしゃってました。まさに、ここはその言葉通りの場所だったのです。

ガソリンをお分けした後、今度は、カップ麺やミカンなどを配布致しました。皆、顔をくしゃくしゃにして、感謝を述べられます。

「ガソリンがほぼ枯渇し、明日以降、給水や食料の買出しができず、困っていたところでした」

「自治体、民間を含め、物資の支援は一度もなかったのが、本当に嬉しいです」

「どちらの団体でしょうか。このご恩は、絶対に忘れません」

その場は、大きな喜びと感謝にあふれました。

それから、次のようなエピソードもありました。

住民の一人に、慚然とした態度で、物資を持って行く方がおられました。非常に怒っている様子にも見受けられます。お話を聞いてみると、我々を市の職員と誤ったようです。

別の住民が、その方に「この方たちは、ワールドメイトという、ボランティアの救援隊なんですよ」と説明しました。すると、「民間の方でしたか！ そうとは知らず、申し訳ありません。本当にありがとうございます」と、恐縮した様子で、感謝して下さいました。

このように、自治体の対応に、大きな不満を抱える住民も多いのでしょうか。困窮した状況下で、住民が抱えるストレスの大きさを、ひしひしと感じました。

その後、周辺の集落にも配給して欲しいと頼まれ、4トントラック隊は、いくつかの集落をめぐりました。気が付けば、福島原発から、25キロ圏まで来ていました。

まだまだ動きたくても、ガソリンがないため動けない村があるようです。しかし、

その情報は、人づてに聞くしかなく、誰も把握できてないのです。

私達が行った所は、どこでも大変な歓迎であると共に、「初めて来てくれた!」と、涙ながらに喜ばれました。物資を配り終えたころは、すっかり辺りの日が暮れていました。

私達が、直接集落に配布した物は、当面必要な分のガソリン、みかん箱3箱、菓子パン50個、ミネラル水20本、タオル5枚、フェイスタオル10枚、お菓子30袋、トイレットペーパー60個、ティッシュペーパー5箱、カップ麺30個、バナナ12房、ツナ缶詰30個、コーン缶詰30個、米50キロ、生理用品50個です。



ガソリンをお渡しした、久之浜の集落の皆様



トラック隊の噂を聞いて、自転車に乗って来る方も



ご自宅まで一緒に行き、車にガソリンを入れました



みかんも喜ばれました



福島原発から25キロの所にあった、「危険 立入制限中」の表示

深見先生がされていることは、自衛隊以上のこと！

ところで、ある海上保安官の方がいます。その方は、今回の原発事故で、指令を出す立場にあるそうです。

その方が、次のようにお話し下さったそうです。

「深見先生が指揮されてる、ゴジラ救援隊は、自衛隊以上のことをやっています。風評で皆が恐れてる場所に、わざわざ行く人は誰もいません。そんな状況なのに、敢えてゴジラ救援隊が、いわき市や茨城北部に行ってるのは、普通は考えられないことです。深見先生はすごすぎる。ワールドメイトはすごすぎますよ！ 神様がやっているとしか思えないです」

このように、海上保安官の方は、興奮気味におっしゃっていたそうです。

政治家も驚く、深見先生の調達能力

3月21日、ゴジラ救援隊の第2陣が、東京から再び、いわき市や茨城、白河、郡山に向かいました。行政の支援や民間援助もなく、取り残された会員や一般市民に、物資をお届けするのが目的です。

今回は、各部隊が、放射能の数値を測定する「ガイガーカウンター」を携えて出発しました。この「ガイガーカウンター」は、この前日に、イギリスから空輸で届いたばかりのものです（その経緯は後述します）。

今後、ゴジラ救援隊は、「ガイガーカウンター」のメーターを見ながら進めるので、身の安全を確保できます。実際、福島に近づくにつれ、メーターの数値は上がって

きます。むろん、万全の準備をした上で、人々の救済を第一に考え、ギリギリの所まで進んでいくのです。また、救援活動が終わった後は、東京に戻り、専門医師のアドバイスを受けながら、適切な除染を行なっています。

ところで、こうして、ガイガーカウンターが手に入ったのは、深見先生がイギリスの原子力専門機関に交渉して下さったからです。現在、ガイガーカウンターは、日本では全く手に入りません。政府や自衛隊、警察庁などの買い占めにより、全くの品切れ状態です。また、イギリスや米国、オーストラリアでも同じだそうです。



ゴジラ救援隊は「ガイガーカウンター」のメーターをチェックしながら、福島に向かいます。

そこで、深見先生が、イギリスの原子力専門機関に交渉し、何と23台も、ガイガーカウンターを借りることができたのです。もちろん、普通はそんな簡単に借りることはできません。しかし、粘り強い交渉と、ワールドメイト救援隊が、いわき市から正式な救援の要請を受けてたので、何とか話が前向きに進みました。さらに、深見先生から、何人かの政治家に入国チェックの協力をお願いし、イギリスからの輸入が数日で調ったのです。

それらの政治家は、「日本でも、海外でも売り切れのガイガーカウンターを、あっと言う間に入手する深見先生は、本当にすごい！ 何という調達能力だ！」と、驚くことしきりだったそうです。

このように、第一線で活躍する海上保安官や、政治家を驚嘆させてるのが、深見先生が行ってる救済活動であり、ワールドメイト救援隊、ゴジラ隊の活動なのです。

こんな所にまで来てくれたのは、 ワールドメイトさんだけです

3月21日、ゴジラ救援隊の第2陣が、東京から再び、いわき市や茨城、白河、郡山に向かいました。行政の支援や民間援助もなく、取り残された会員や一般市民に、物資をお届けするのが目的です。

震災後10日以上経っても、まだ、行政支援が行き届いてない所がたくさんあります。特に、いわき市や茨城北部は、放射能の風評で、脱出して他県に行く人が沢山います。そのため、行政の支援も一層手薄になり、残った人達が食料やガソリンの不足で困窮してるのです。

そもそも、地方の町ではガソリンがないと、生活が成り立ちません。ガソリンがないために、買い物にも行けず、貯えの食料も尽きようとしている……。しかも、近所の人達はいなくなり、ますます孤立していくばかり……。

3月20日、ゴジラ隊第1陣が実際に現地を訪れ、あまりにも過酷な現実を目の当たりにしました。

「これじゃあ、あまりにもかわいそうだ……」

「孤立した人達を、少しでも助け、励ましたい」

これが、ゴジラ隊全員が感じた、率直な感想でした。

そこで、第1陣が東京に戻るやいなや、第2陣出発に向けての準備が始まりました。第1陣は4隊でしたが、第2陣は5隊で、福島、茨城方面に向かいます。そして、第

1陣が戻った、わずか数時間後に、第2陣の出発となったのです。

ゴジラ隊の第1陣が訪れた、いわき市最北端の久之浜地区は、行政の支援も、民間の援助もない、取り残された集落でした。そこで、第1陣が訪れた翌日、第2陣（1陣とは別のゴジラ隊）も久之浜に、物資を再度届けることになったのです。

今回は、深見先生のご配慮により、イギリスから取り寄せた「ガイガーカウンター」を携えながらの出動です。福島に近づくにつれ、ガイガーカウンターの針が大きく反応します。それでも、専門の先生に電話で聞くと、「人体にはほとんど影響がないレベル」とのことで、安心しました。

さて、まずは、いわき市の四倉支所（役場）に到着し、前日訪れた同じ団体であることを告げました。すると、担当の方が「早速、また来て頂いて、ありがとうございます！ 本当に助かります」と、非常に喜んで下さったのです。また、別の方は、次のようにおっしゃいました。

「この辺りは電気、電話、水道がまだダメなので、まだまだ、苦しい状況が続きます。昨日、ワールドメイトさんから頂いた物資を、個人宅に配布し始めました。どの方も、非常に喜んでいまして、本当に助かっています。

こんな所にまで来てくれたのは、ワールドメイトさんが初めてで、他の団体さんは、どこも気付いてないんでしょうね……。まだ、どこからも来てないですよ。こんな切迫した時に物資を提供して頂けるのは、本当にありがたいことです。くれぐれも、代表の方よろしくお伝えください！」

このように、現場の状況は、第1陣から聞いていた通りでした。私達、ゴジラ隊以外には、助けてくれる人がいないのか……。役場の方の話聞き、ゴジラ隊の使命を、改めて強く自覚しました。



四倉支所（役場）に物資を搬入しました

◆ いわき市四倉支所にお届けした物資

・おでん 500袋 ・豚汁 225袋 ・クリームシチュー 225袋

この他に、前日リクエストがあった、以下の物資をお届けしました。

・ウエットティッシュ 60個 ・缶詰 30個 ・カップ麺 115個
・お菓子 87個 ・総合風邪薬 50箱 ・頭痛薬 10箱 ・胃腸薬 10箱
・便秘薬 10箱 ・下痢止め 15箱 ・軟膏 4箱 ・湿布 5箱
・絆創膏 10箱 ・熱さましシート 20個 ・スポーツドリンク（粉末）10袋
・尿取りパット 20個 ・男性用パンツ 102枚 ・男性用シャツ 76枚
・男性用靴下 72枚 ・女性用インナー 40枚 ・女性用ショーツ 80枚
・女性用7分丈ズボン 10枚

ガソリンがない人が次々と

その後、最北端の久之浜に行きました。海岸沿いでは、テレビで見たのと同じ光景が続いてました。4～5台の車が、倒壊した家に折り重なってたり、船がいくつも地上に上がっていたり……。惨状を目の当たりにして、言葉もありません。

駅の近くに車を止め、辺りを見回していたところ、「もしかして救援の方ですか？」と、住民の方に尋ねられました。事情を伺うと、ガソリンが必要とのことでしたので、早速、その方の車に給油しました。

すると、その周辺の家から、次々に人が出てきました。どうやら、最初の方の奥さんが、近所の知り合いの方に、次々と声をかけたようです。あっという間に、15名ほどの方が集まりました。皆さん、ガソリンと灯油、食べ物がないようです。住民の1人が、こうおっしゃってました。

「ガソリンは、何とか手に入るようになったんですが、灯油がまだまだですね。だから、夜や朝がもう、寒くて寒くて……。店に行っても、売り切れてるし、ほんとに苦しいです。四倉支所からは、昨日初めて支給がありました。でも、わずかしか来ないから、本当に助かります。まだ、電気と電話と水が復旧してません。しかも、町から大勢の人が避難して、いなくなってしまった。この先、本当にどうなるのか……。分からないですね……」



久之浜駅周辺の住民に、ガソリンをお分けしました

皆さん、本当に心細い中で、懸命に生きようとされています。こうして、少しでも皆さんの力になれて、本当に良かったと、しみじみ思いました。

◆久之浜駅周辺の住民にお分けした物資

- ・ガソリン 90L
- ・軽油 30L
- ・おでん 168袋
- ・お米 5kg
- ・お米 10kg×2袋
- ・キティうどん 12個
- ・レトルトカレー 5個
- ・水 2L×2本

病院で診てもらうのも困難なこと

さて、その後、第1陣も訪れた平体育館に行きました。ここには、約100名の避難者があり、おでんを240食渡しました。食料は、まだまだ不足してるようです。避難所の責任者の方が、こうおっしゃってたのです。

「給油しようと思っても、3時間待って、たったの10リットルです。また、給油のため道路に50台並ぶと、警察から、『それ以上は並んだらいけない』と言われます。とにかく、ガソリンを手に入れるのに苦労しますね。

それから、ぜんそくや気管支炎など、持病のある方が何人かいます。体育館は、特に夜と朝は寒いから、具合が悪くなることがあるんです。それで、救急車を呼ぶのですが、呼吸困難とか意識がなくなるくらいでないと、『ああ、これなら大丈夫ですね』と言われ、病院に搬送してもらえないんです」

病気なのに、こんな寒い体育館で過ごさなくてはいけないとは……。しかも、病院にも行けないなんて……。どうか1日も早く、平体育館の皆様が普通の生活に戻り、病気も改善しますように……。そう願わずにはいられませんでした。

◆平体育館でお配りした物資

- ・おでん 240袋



約100名の避難者がいる平体育館にも、世界一のおでんをお届けしました

温かいものが食べられるのが、非常にありがたい

次に訪れたのは、草野小学校です。この小学校の体育館には、約70名の方が避難しています。県と市の職員が数名、応援に来ていました。

「県と市の職員が2泊3日で、交代でここに来ています。徐々に、食料も提供されてきてます。でも、まだまだ不足気味で、節約しながら生活しています。今日はおでんを頂いて、温かいものが食べられるので、非常にありがたいです。灯油は少ししかないので、朝と夜の、寒さがひどいときに使用するようにしています。こちらまで、なかなか物資が入ってこない状況です。本当に、ありがとうございます」

私達ゴジラ隊も、神事会場などで、冷たいものしか食べられない時があります。そんな時、温かい食べ物は、どれほどありがたいことでしょうか。本当に、生き返る心地がします。しかも、深見先生が「世界一」と断言するおでんです。このおでんで、皆さんの体も、心も、きっと癒されるに違いない。そう確信したのです。



約70名が避難生活を送る、草野小学校の体育館。
世界一のおでんで温まって頂けますように

◆草野小学校の体育館でお配りした物資

- ・おでん 240袋

1日も早く元の生活に戻れるよう……

会員でない方のお宅も訪問しました。ある会員の方から、「私の両親の自宅の前に住んでる、老夫婦が食べ物がもうなくなってるそうです。いわき市なので、孤立してます。できれば、行ってほしいのですが……」と、連絡を頂いたのです。そこで、トラックをさらに走らせ、その老夫婦の家を訪れました。

「ガソリン給油で、8時間並んだのに、結局、買えなかったんですよ。犬のえさも、なくなりました。電気と電話は通じてるんですが、水が全然だめなんです。だから、10日間、お風呂に入ってません。

足が悪いので、車がないとだめなんです。どこにも行けない。娘が、埼玉に住んでるので、行くことも考えてるんですが、何しろ車がないと、どうしようもない。

もう、このあたりには、誰もいなくなりましたね。これからどうなるのか……。でも、今日はガソリンを頂いて、本当に助かりました。こんな遠くまで、わざわざ訪ねてくれて……。本当に、有難いことです。ありがとうございます。ありがとうございます」

Hさんの話を聞いてると、日々の生活に困窮してるのが、ひしひしと伝わってきました。そして、困っていた分、何度も感謝の言葉をおっしゃって下さったのです。こうして、ご縁があった老夫婦にも、物資をお届けできて、本当に良かったと思います。同時に、1日も早く元の生活に戻れるよう、心の底から祈るばかりです。

◆Hさんにお渡しした物資

- ・ガソリン 10L
- ・おでん 24袋
- ・お米 5kg
- ・水（2L） 1本
- ・キティうどん 12個
- ・レトルトご飯 5個

ゴジラ隊5隊の救援活動

今回レポートをお送りした、2トントラック隊に加え、3月21日は、全部で5隊のゴジラ隊が出動しました。どこに行っても、皆さん、本当に喜んで下さいました。むろん、今後も、ゴジラ隊の救援活動は続きます。

■マイクロ1号隊

福島県白河市の会員11名、一般施設（老人ホーム&農業短期大学）2軒、支部1軒に、物資をお届けしました。

■マイクロ2号隊

福島市、郡山市の会員9名、一般5名、老人ホーム2軒に、物資をお届けしました。

■ハイエース隊

茨城県の会員8名に、物資をお届けしました。

■コントラバス隊

福島市、郡山市の会員9名に物資をお届けしました。

■2トントラック隊

いわき市の会員4名、一般1名、施設3軒、久之浜駅近くの皆様7～8名に、物資をお届けしました。

陸の孤島、気仙沼へ

3月23日、今回の震災で壊滅的な被害を受けた、宮城県気仙沼市に向かいました。地震と津波のあと、大火事にも見舞われた、あの気仙沼市です。

この地区は、周辺の道路も寸断され、「陸の孤島」になっていました。救援隊としても、1日も早く物資を届けたいと、願い続けた地域です。

仙台から、気仙沼に行く場合、普通は海岸沿いの国道45号線を使います。しかし、通行止めや、交通規制が予測されたため、内陸の山越えルートを選びました。片道4時間です。

こうして、気仙沼に無事に到着すると、そこに見えたのは、津波と地震、火事によって完全に倒壊した、無惨な町の姿でした。この町で育ち、この町を愛してきた、地元の人々の気持ちを思うと、慰めの言葉も見つかりません。



救援隊スタッフが撮影した
気仙沼の町

震災後、初めて無事を確認し合う

その後、地元のKさん（女性）に連絡し、ある駐車場で待ち合わせることにしました。私たちが到着し、再会した時点で、すでにKさんは泣いてらっしゃいました。

「こんな遠くまで、わざわざ来てくださって、それだけでもう大感激です！ 深見先生、本当にありがとうございます」

Kさんは何度も、深見先生に、お礼の言葉を述べていらっしゃいました。

そして、Kさんと一緒に、地元の会員さんに電話をかけました。しばらくすると、1人また1人と、会員さんが駆けつけて下さいました。震災後、どの方にも会ってなかったらしく、お互いの無事を、涙ながらに喜び合ってたのです。

ところで、気仙沼は電気は通ったものの、水道はまだ通ってない所があります。また、ガスはまだ使えません。そして、他の地域の方々と同じように、ガソリンが全くありません。そのため、どこにも行くことができず、自宅にある食料を少しずつ食べて過ごしてたそうです。ある会員さんは、「本当に心細く、不安でしよがなかつた…」と、涙をこぼしてました。ここ数日になって、ようやく、避難所にも物資が届き始めたそうです。それでも、一人一人に十分な物資が行き渡るには、まだまだ時間がかかるのが現状です。

とにかく、皆さん、ガソリンを持って行ったことを、本当に喜んでくださいました。どこに行くにも、車がないと始まらない町です。だから、何よりも嬉しいとおっしゃり、皆が、深見先生に心から感謝しました。

もちろん、ガソリンの他にも、食料や衣類、水など、皆さんに必要な物を選んで頂きました。

すると、その様子を見て、地元の方（中年の男性）が「これ、売ってくれるんですか？」と、訪ねてきました。そこで、「お困りだと思いますので、どうぞ、お持ち帰り下さい」と、物資をお渡ししました。

その方は、「なんて素晴らしいグループなんでしょう！ 名刺をください。お礼の手紙を書きますから！」と、感激して涙を流してました。

また、別の方（年配の男性）は、「私にもたくさん仲間がいるけど、こんな素晴らしい仲間はいない。本当に素晴らしいねえ」と言って、その方も涙を流しました。そして、自転車にいっぱい物資を載せ、嬉しそうに帰って行きました。

◆気仙沼の皆さんにお渡しした物資

- ・ガソリンたっぷり
- ・缶詰 144個
- ・納豆 50個
- ・レトルトカレー 70個
- ・レトルトごはん 72食
- ・水（2L）18本
- ・水（500ミリL）60本
- ・味噌 10kg
- ・サランラップ 6本
- ・体ふきタオル 6セット
- ・生理用品 6セット
- ・男性用下着 12着
- ・女性用下着 12着
- ・靴下 30足

一番欲しかった、 電子レンジと電気ポットが届いた！

いわき市の四倉支所（役場）は福島原発に近く、行政の支援が手薄で、物資の供給が遅れています。

今回は、あらかじめ電話で、不足しているものをお聞きしました。特に、靴下、シャツ、セーターなどの衣類や、タオルが不足しているとのこと。また、電子レンジや電気ポットが、是非欲しいとのことでした。

四倉支所の担当者は、次のようにおっしゃっていました。

「とにかく、4つずつ頂いた電子レンジと電気ポットは、本当にありがたいです。いわき市の担当者に、レンジとポットが欲しいと言っても、取り合ってくれません。でも、避難所の皆は温かいものが食べたいから、レンジとポットが必要なんです。だから、本当に助かりました！

それにしても、ワールドメイトさんは、フットワークがすごいですね！ もう、ビックリしてます。ようやく、あるNPO法人や個人の方から、物資の提供がありました。が、何度も来て下さるのは、ワールドメイトさんだけです。



四倉支所で、今回もっとも喜ばれたのが、電気レンジと電気ポットでした。

現在（震災後2週間の3月25日）、『いわき市はかなり回復してきた』と、言う人もいるのですが、ここ四倉や久之浜は、まだまだこれからです。実際に、久之浜では、ようやく、行方不明者の捜索が始まったところなんですから……。とにかく、四倉や久之浜は、いわき市の中でも孤立しています。

実は、地震と津波の後、火事があちこちで起きたんです。このあたりは、木造建築が多いですから……。津波で貯水池もダメになり、消火する水もなく、最悪の災害でした。焼けて亡くなった方々の身元確認が、ようやく始まったところですよ。一人住まいの老人などは、身元さえ分からないのです。そんな人も大勢います。今回の災害が、本当に現実なのかどうか。未だに、感覚が麻痺することもあるんです……。

今後も、この地域は、かなり復興が遅れると思います。だから、ワールドメイトさんの援助は、大変心強いんです。こうして、ワールドメイトさんに物資を頂くと、『自分たちは、見放されていないんだ！』と安心できます。その意味でも、ワールドメイトさんに、本当に感謝しております。どうぞ、これからも、引き続きよろしくお願い致します」

どこまでも、支援の手を差しのべる深見先生の、決意と姿勢が四倉^{よつぐら}の方々にも強く伝わっていることを、実感しました。これからも、この取り残された地域の方々を、支援し続けたいと思います。

◆ 四倉支所にお届けした物資

- ・男性用靴下 84足
- ・男性用肌着 104枚
- ・男性用セーター 47枚
- ・女性用肌着 201枚
- ・女性用靴下 51枚
- ・女性用セーター 47枚
- ・タオル 200枚
- ・電気ポット 4つ
- ・電子レンジ 4台

寒さを凌ぐための、灯油がありがたいです！

四倉支所の次は、前回も訪れた、草野小学校に行きました。この小学校の体育館では、65名の方が避難生活を送っていました。県と市の職員が数名、24時間体制で、交代で応援に来ています。事前の情報では、特に灯油が不足しているとのことでした。そこで、今回は灯油をお持ちしました。

「朝と夜の、冷え込みが厳しい時間だけ、ストーブをつけています。それでも、灯油が足りません。だから、たいへんありがたいです。この体育館には、ストーブが3台しかないのです、なかなか暖まらなくて……。でも、ワールドメイトさんの、おでん

やカップ麺のおかげで、温かいものが食べられます。体が温まるから、本当に助かりますよ。食料品の店も、徐々に営業を再開していますが、まだ数が限られています。食料もまだまだ、足りないですね……」

この体育館の周辺では、日中でも、かなりの冷え込みを感じました。朝や夜は、相応な寒さになるはずですが。避難されてる皆さんが、寒さに負けることなく、なんとかこの苦難を乗り越えて欲しいと、願わずにはられません。

◆ 草野小学校の体育館でお渡しした物資

・灯油たっぷり

キティうどんは、ちょうどいいサイズで大好評！

最後に、いわき市平体育館に行きました。こちらも、2度目の訪問です。震災直後は、この体育館に約300人が避難してましたが、その後、80人に減りました。他県や、身内の所に行った人が多いそうです。

「ようやく、数日前からお弁当（おにぎりとおかずが少し）が1日2回、支給され始めました。でも冷たいですし、わずかな量ですからね……。まだまだ、現実は厳しいです。

でも、ワールドメイトさんから頂いた、キティうどんは、とにかく大好評ですよ！あまりにも美味しいし、量が絶妙なんです。普通サイズのカップ麺だと、残す人がいます。でも、キティうどんは、ちょっと小さめで、しかも美味しいから、誰も残さないですよ。あれは、ほんとにいいですね。大事に使わせて頂いています。

ガソリンも食べ物も、この周辺にも少しずつ入ってきてます。けれど、まだまだ、絶対量が少ないです。お店に行っても、タイミングが悪いと、ほとんどありません。

とにかく、何度も来て頂いて、本当にありがとうございます。ワールドメイトさんは、すぐ来てくれるから、助かりますよ！ 今後も、よろしくお願い致します」

こうして、お話を聞いている時、この体育館の職員さん達も、ガソリンが不足していることが分かりました。そこで、「車に給油しますよ！」とお話ししたところ、最初はすごく遠慮してました。それでも、「どうぞご遠慮なく」と言って、5人の職員の車に給油させて頂きました。皆さん、ことのほか喜んで下さり、本当に良かったです。

このように、避難所の人数は減っていても、まだ食料や生活用品は、依然として不足していることが分かりました。避難生活を送ってる方々のために、私達ゴジラ救援隊は、今後も粘り強く、救援活動を続けていきたいと思えます。

◆ 平体育館でお渡しした物資

- ・ガソリンたっぷり ・キティうどん 372個
- ・おでん 22袋 ・シチュー 80個
- ・豚汁 60個 ・水 2Lを12本
- ・トイレットペーパー (18ロール) 1パック



大好評のキティうどんを、372個、新たにお届けしました。

「生命維持に必要な物資」から、「生活必需品」へ

震災から1カ月が経ちました(4月11日時点)。震災3日後から始まった、ワールドメイト救援隊の活動は、1日も休むことなく、現在も続いています。

4月に入ってからは、「食料など、生命維持に必要な物資」をお届けする段階から、「生活必需品」に移りつつあります。それぞれの避難所に、十分な物資が届くようになってきたからです。

ところが、先日4月7日の最大余震により、救援活動が以前の状態に戻った所もあります。再度、「食料など、生命維持に必要な物資」が必要な避難所が、いくつも出てきたのです。例えば、大船渡や気仙沼の小さな避難所では、食料が不足していました。そこで早速、大船渡、気仙沼に食料をお届けしたのです。また、引き続き、必要な物資をお届けしていきます。

THEMIS LOBBY



海上保安官も称賛する「ゴジラ隊」の救援活動

大震災後、さまざまなボランティア団体が東北入りしているが、いち早く「ゴジラ救援隊」を結成し、各地の市民にカップ麺やガソリンを提供したのが「ワールドメイト」という団体だ。

彼らは行政の支援も民間の援助もない、福島県いわき市や茨城県北部などを皮切りに取り残された集落をマイクロバス、ワゴン車、4トントラックなど計5台で回っている。とくに注目されるのは、英国から特別に取り寄せた放射能測定器「ガイガーカウンター」を28台も備えていたこと。ゴジラ救援隊はこのメーターを

見ながら身の安全を確保しつつ、フクシマ入りした。

代表で助協和協会理事長の半田晴久氏がいう。

「ゴジラ隊と命名したのは、ゴジラは放射能や電気を食べてパワーに変えたが、そのくらの気概を持って政府や自衛隊、自治体ができないところをわれわれ民間がカバーしようということだ。阪神大震災の教訓も生かされた。いま、放射能の風評被害で間違った情報が飛び交っているが、ガイガーカウンターできちんとした数字を計ることで、円滑な救援活動ができる」

もちろん、隊員は後に放射能測定をしてクリニックで医療チェックを行う。このワールドメイトの活動に対しては、ある海上保安官も「ゴジラ隊は自衛隊以上のことをやっている」と語っている。

ゴジラ救援隊の活動が、雑誌「テーマス」2011年5月号で紹介されました

